

叡啓大学 2024 年度入学者選抜（春入学）
（総合型選抜・留学生選抜、学校推薦型選抜）

グループディスカッション

1 テーマ

持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）の目標 17「パートナーシップで目標を達成しよう」の中で、ターゲット 17.17 として「さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する」が掲げられています。

こうしたパートナーシップはあらゆる分野で必要とされていますが、日本の地域づくりにおいてもこのパートナーシップの重要性が指摘されています¹。地域は多種多様な課題を抱えていますが、自治体だけでそれらの課題を解決することは困難です。そのため、行政、企業、NPO 等の様々なステークホルダー（利害関係者）が、協力・連携し、相互の信頼関係を構築しながら、地域づくりに取り組むことが求められています。そして、地域における高等学校もこうしたステークホルダーの一つであり、地域の担い手として、地域づくりへの参加が期待されています。

こうした中、高等学校が地域づくりのために、住民交流や観光促進など様々な役割を果たしている事例が見られるようになってきました。また、「高校魅力化プロジェクト」に代表されるような高等学校が地域と連携し、魅力的な教育プログラムの実現と地域づくりを両立させる具体的な活動も始まっています²。文部科学省は、「これからの高等学校教育について」の中で、高等学校と地方公共団体、産業界、高等教育機関、NPO 法人等との協働体制を構築することで、地域の課題や魅力に着目した実践的な学びを実現していくことの重要性について言及しています³。こうしたことから、未来の高等学校においては、より一層、学校外の多様なステークホルダーとのパートナーシップの構築が求められることになるでしょう。

これからの日本の高等学校は、地域づくりのために、どのような役割を果たすことが大切だと思いますか。またそのためには、どのようなステークホルダーをパートナーとして巻き込んでいく必要があるのでしょうか。さらに、そうしたステークホルダーを巻き込むためにどのような取組みが必要かについて、議論してください。

（本文中の注釈）

1 国土交通省「建設白書の概要（平成 12 年）」

https://www.mlit.go.jp/hakusyo/kensetu/h12_2/h12/html/C1424200.htm

2 高校魅力化プロジェクトウェブサイト

<https://miryokuka.com/>

3 文部科学省「これからの高等学校教育について」

https://www.mext.go.jp/content/20201124-mxt_koukou02-000011165_03.pdf

2 事前課題

必読資料を読み、各自で事前課題発表用資料を作成してください。

(1) 必読資料

環境省「SDGsの達成に向けたパートナーシップでひらく地域づくり」

https://www.env.go.jp/policy/kyoiku/sdgs_partnership.pdf

総務省「地域活性化の拠点として学校を活用した地域づくり事例調査」

(p.63～92、p.130～140)

https://www.soumu.go.jp/main_content/000222444.pdf

(2) 事前課題

「これからの日本の高等学校は、地域づくりのために、どのような役割を果たすことが大切だと思いますか。またそのためには、どのようなステークホルダーをパートナーとして巻き込んでいく必要があるのでしょうか。さらに、そうしたステークホルダーを巻き込むためにどのような取組みが必要か」について、あなたの考えをまとめて、1人3分以内(時間厳守)で発表する資料を作成してください。

【事前課題発表用資料の作成・発表方法】

- ・ 事前課題発表用資料は手書き、パソコンなど作成方法は問いません。また、用紙の種類やサイズ、枚数などは指定しません。
- ・ 資料や図表等を引用する場合は、必ず出典を記載してください。
- ・ 発表方法は、次のいずれかから自身の取り組みやすい方法を選んでください。
 - 紙面をパソコン等のカメラに向けて提示し発表する。
 - Zoomの画面共有機能を用いて発表する。

3 グループディスカッションの進め方

- ・ 試験は日本語で実施し、試験時間は90分です。
- ・ ①個人発表、②グループ内での役割分担、③ディスカッション、④グループ発表の流れでグループディスカッションを行い、当日指定された時間までに、議論を終結させてください。
- ・ グループの人数は6人程度(予定)です。次のページの【進め方の例】を参考に、議論の進め方や時間配分などについても、グループで決めてください。

なお、試験官は議論の進行に関与しません。
- ・ 他の人の発表の際には、各自でメモ等をしながら話を聞いてください。
- ・ 試験の最中に、資料等を参照してもかまいません。
- ・ 試験終了10分前になったら、到達した結論または議論の過程について、試験官にプレゼンテーションを行ってください。全員が同じ結論に到達する必要はなく、複数の結論を含んだまとめでもかまいません。

【進め方の例】 ※時間は目安

① 個人発表(15分～17分程度)

事前課題をグループのメンバーに発表。

※ 発表時間は1人3分以内(時間厳守)

※ 他の人の発表の際には、他のメンバーは聞きながらメモ等。

② 役割分担等(3分程度)

役割分担(司会、書記、タイムキーパーなど)、議論の進め方や時間配分などについて、グループで話し合う。

③ ディスカッション(60分程度)

それぞれが発表した内容を踏まえ、「これからの日本の高等学校は、地域づくりのために、どのような役割を果たすことが大切だと思いますか。またそのためには、どのようなステークホルダーをパートナーとして巻き込んでいく必要があるでしょうか。さらに、そうしたステークホルダーを巻き込むためにどのような取組みが必要か」についてグループの案を検討する。

(進め方のヒント)

- ・ 具体的なアイデアについて、必要性や有効性、実現可能性等を検討する。それぞれの発表を聞き、共通点や相違点を見出してみましょう。
- ・ グループで、とくに取り上げて議論する点はどのようなことでしょうか。
- ・ どんなステークホルダーとどのようなパートナーシップを結ぶことでどのようなことが起こりそうですか?それを実現するために何から始めますか?考えてみましょう。

④ グループ発表(10分程度)

到達した結論または議論の過程について発表する。

※ 発表は複数人で行ってもかまわない。また、発表用の資料をディスカッション中に作成する必要はない。

4 グループディスカッションの注意事項

- ・ グループディスカッションで知り得た同じグループの受験者に関する情報を、他者へ伝えることは禁止します。
- ・ グループディスカッションの実施中に、受験者自身のプライバシーに関する内容を話題に挙げる場合は、受験者自身の責任において行ってください。

5 評価基準

本学は、次の基準でグループディスカッションを評価します。

評価観点	評価基準	アドミッション・ポリシー
姿勢・視野	<ul style="list-style-type: none"> 「グループディスカッションの進め方」をふまえて取り組んでいるか。 事前課題に積極的に取り組んでいるか。 グループ内で出された異なる視点や情報を取り入れて、より良い案を生み出す姿勢が見られるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来を見据え、目的意識を持って学修に取り組もうとする姿勢 自ら先頭に立ち、他者を巻き込んで様々な課題に取り組もうとする姿勢
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> グループで決めた役割を適切に担っているか。役割に応じた貢献をしているか。 異なる考えや価値観に理解を示し、他者と積極的にコミュニケーションを行っているか。 他者の話をよく聴いて、議論を円滑に進めようとしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者と積極的にコミュニケーションを行う姿勢
その他	<ul style="list-style-type: none"> 事前課題について、伝えたいことを明確に、図表を用いて他の人にわかりやすく表現できているか グループディスカッションの発言の中で知識や思考力があると感じられるか。 将来大きく伸びる可能性や伸びしろを持っていることを、強く感じさせるか。 	—